自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

富山大学教育・学生支援機構データサイエンス推進センター会議

(責任者名) 唐渡 広志

(役職名) データサイエンス推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	プログラム科目の担当教員は、LMSIに記録された各受講者の履修状況を確認することができる。また、データサイエンス推進センター会議においてプログラム科目の履修状況、プログラム修了学生数、修了可能な学生数の分析を行っている。
学修成果	データサイエンス推進センター会議において、プログラム構成科目の成績および授業アンケートを分析し、授業内容の学生の理解度を把握し、プログラム科目の評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	プログラム構成科目の受講者に対して実施している授業アンケートにおいて、各教育項目の理解度を確認している。その結果をデータサイエンス推進センター会議にて検討し、教育プログラムの改善につなげる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	プログラム構成科目の受講者に対する授業アンケートやプログラム修了者に対するアンケートによって、他の学生への推奨度とその理由を確認している。その結果をデータサイエンス推進センター会議にて検討し、教育プログラムの改善につなげる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	理学部理学科の卒業要件必修科目である「数学概論I」、「理学部データサイエンスI」を、本取り組みの必修科目とすることで、履修率向上を試みている。その他、初年次に開講される「理学部入門A」での告知により周知を図る。

必修5科目5単位(理学部データサイエンス)

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>理学部では卒業生の就職先のデータを収集しているため、プログラム修了者の進路調査を行うことができる。また、従来から、就職先の企業に対してアンケートを実施しており、卒業生の活躍状況や企業からの評価、学生の中に修得して欲しいスキルなどが把握できる。</p> <p>プログラム修了者の就職先の企業に対してアンケートを実施することで、本プログラムへの意見を収集する。理学部では、学術研究・産学連携本部を通じて、R5より民間企業からのデータ提供の協力を得て、実データを活用したデータ解析を行なっている。今後も産業界からのニーズも取り入れながらプログラムの内容を改善する体制を整える。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>理学部横断科目において理学部データサイエンスIIを開講し、理学部学生全体に各分野においてデータサイエンスがどのように活用されるかを講義する。理学部データサイエンスIIIにおいてはさらにデータサイエンスに関するさらに高度な内容を扱うことにより、データサイエンスを学ぶ意義と必要性を伝える。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業アンケートにより、学生の満足度や理解度を調査し授業内容の改善につなげる。プログラム構成科目において生成AIの活用例を適宜示し、自ら効果的なプロンプトを発見したり、回答内容を吟味していくことの重要性を伝える。全学的な取り組みと連携し、社会の変化や技術の発展に追従する取り組みを随時実施する。</p>